

元気 いっぱい!

小野田小学校 4 年生 環境センター見学

「わたしたちが毎日出しているゴミはどのように処理されているのだろう？」～小野田小学校 4 年生の 53 人の児童が社会見学で訪れたところは環境衛生センター。市内で出された大量のゴミが巨大なクレーンで焼却炉に運ばれていく様子や、山積みペットボトルがあつという間に大きなかたまりに姿を変えていくところなど、初めて目にする光景に「丈夫だと思っていたペットボトルがこんなに簡単につぶれるなんてびっくりしました。」と児童は驚きを隠せないようでした。

ゴミについて学んだ後は、小学校までの道のりを、保護者と一緒にごみ拾いしながら帰りました。きれいに見える道路も、道端に入ると次々と空き缶やタバコの吸殻が見つかり、用意したゴミ袋はすぐにいっぱいになっていきました。

今回の社会見学を通じて、児童の心の中も磨かれて、美しいわがふるさとを守る気持ちが芽生えたことでしょうね。



▲ひとつのかたまりとなつてはきだされていくペットボトル。こんな姿になるなんて・・・。



▲ゴミの種類ごとに担当を決めて歩いた帰り道。どの袋もすぐにゴミでいっぱいになりました。

夢 いっぱい!

自在に形を変える ガラスに魅せられました



ガラス作家をめざす
はしもと ともゆき
橋本 倫礼 さん
(防府市)

本市で活躍するガラス工芸作家・西川慎^{まこと}さんのアシスタントとして働く橋本倫礼^{ともゆき}さんのガラスとの出会いは 2 年前。焼野海岸にある西川さんの工房で体験教室に参加したのがきっかけでした。「自在に形を変えていくガラスに魅せられたんですね。」と、自分の進むべき道を探しあぐねていた当時を振り返る橋本さん。それからいわゆるリピーター^{まこと}となって、工房通いがはじまりました。

その後、「きららガラス未来館」が開館すると、通年のガラス講座を受講し、講座が終わるや講師の西川さんを質問攻めにもする。もしばしば。「あんな熱心な受講生はいませんよ。質問の内容はよほど真剣に取り組まないと出てこないレベルでしたから。」と橋本さんの熱意にプロの西川さんも舌を巻くほどでした。花屋さんの仕事もやめ、ガラス一筋に打ちこむ情熱はやがて西川さんの心をも動かします。「ガラス作家を目指すということは、本来なら他人には決して勧められない厳しい道」という西川さんから「よければアシスタントを」と声をかけられたのです。

「アシスタントになって一年が経ちますが、学ぶことばかりの今は先のことまで考えられません。ただガラスの奥深さに触れる毎日が楽しいですね。」と語る橋本さんですが、その胸の中では「自在に形を変えるガラス」のように熱い夢が、これから「形」を与えられるのを待っているようです。